

期日：令和4年12月6日（火）14：00

会場：長井市置賜生涯学習プラザ

講話 『教頭と事務職員の連携・協力の在り方』

講師 高島町立高島中学校 主任主査 後藤 俊雄様

1 学校事務職員の現状と取り巻く環境

- ・経験年数別、年齢層別ともにベテラン層と若手層に二極化している
- ・中間層が少ないため、ベテランと若手をどうつなげていくかが今後の課題
- ・市町の管理規則も「つかさどる」「標準的な職務内容」「共同実施」等の文言が盛り込まれた内容に改正が進んでいる



2 学校事務連携・共同実施の取り込み状況から

<成果>

- 相互点検によるミス防止
- 事務の正確性・効率性の向上→信頼へつながる
- 事務処理の学校間の標準化、会計事務処理の統一
- 初任者支援による事務の円滑化、資質能力向上

<課題>

- △主体的に学校経営に参画するための支援組織としての機能（OJTによる人材育成）
- △経験年数と役職に応じた系統的な研修体系の構築

3 教頭と事務職員の連携・協力

(1) 事務職員として必要な行動

- ・責任をもって業務を担当して適正な事務処理を確実に行うこと（→安心感を与える）
- ・仕事に線引きせず、できることに積極的に取り組む、興味を持つ（→相談できる人に）
- ・人に教えることを前提にして学ぶ（インプット、アウトプット）
- ・「折れない心」（タフな心）を身につけること
- 「失敗は回り道で、行き止まりではない 迷うときこそ人が進歩するとき」
- ・学校の課題や社会状況を把握し、管理職とコミュニケーションをとりながら必要な方策を考えていく

(2) 具体的な連携・協力

- ・学校の事務全般の役割分担の明確化・適正化（学校の実態に応じた体制づくり）
- ・今日とは常に明日の準備 常に未来を視野に入れて
- ・予算や会計処理について共通理解（予算要望できる教員に）
- ・教頭会と事務部会の情報交換・合同研修
- ・人材育成（→校内で教育との関わりを作っていく、職務に対する意欲を持てるように）
- ・相手の立場に立つこと、お互いに最優先の処理をこころがける（提出物は締切前日までに）



子どもにとって 学ぶことがうれしい、わかる！できる喜びにあふれる学校
先生方にとって 授業すること、子どもと活動することが楽しい学校
教職員にとって 仕事のやりがい、存在感のある学校

<グループ討議> テーマ 「ともに」「かかわり」「つなぐ」事務職員として

ステージ別に分かれ、講話の感想や日頃の悩み、目指す姿に近づくための研修のしくみ等について話し合った。